

# リズムニュース

米沢市立病院  
循環器科  
第6号 2006年

今回はペースメーカー植え込み後のトラブルについて考えてみましょう。  
ペースメーカーを入れた人は磁場などにも気をつけ、注意深く生活している人が多いため、本人の不注意で起こるようなトラブルはほとんどありません。つまり注意していても起こってしまうような不具合が多いのです。大きく分けると次の5つになります

- ① リードの不完全断線
- ② 電池部分の皮膚の怪我がもとで、皮膚の弱いところから電池が出てしまう、または皮膚の感染をおこす場合
- ③ 不整脈治療薬の変更などで、心筋の閾値が高くなりペーシングしなくなる場合
- ④ リードの偏移
- ⑤ メーカーからのリコール

詳しく説明しましょう

## ① リードの不完全断線

ペースメーカーのリードは鎖骨の下の静脈から入っていますが、鎖骨と肋骨の間の狭い場所を通して心臓に固定されています。この場所の広さは人によってそれぞれですが、長い間に骨と骨の間で擦れて、リードが磨耗してしまうことがあるのです。当院のリードの入れ方はカットダウン法といって、狭い場所を通らない手技を用いていますが、2, 3, 4本とリードの数が多くなってくると磨耗の危険も高まってきます。リードはいきなり切れてしまうことはありません。まずリードの皮膜に損傷ができると、ペースメーカーチェックやホルター心電図で異常が見つかりますから、定期的な検査を受けましょう。今まで感じたことのないめまいや失神などがあつたら、主治医に相談してください。当院では20年間で268本のリードのうち11本に不完全断線が見つかりました。

## ② 皮膚の感染

ペースメーカーの植え込み時に、皮膚の切開部からバイキンが入る危険があるのは聞いていると思います。手術も終わり何年もたってからそんなことはないだろうと思われる方も多いかもしれませんが、半年もたてばペースメーカーの周りには膜の袋ができて簡単にはバイキンも入っていきません。しかし、ペースメーカー直上の皮膚は薄くなっていますから、怪我や擦過傷から膜の袋に傷が及ぶと袋がもろくなりペースメーカーが見えるようになったり、バイキンがペースメーカーを伝って心臓まで到達することもあります。ペースメーカー直上の皮膚が膿んだり赤くなった場合には、はやめに主治医に連絡してください。

### ③ ペーシング閾値の上昇

ペーシング閾値とは心臓が動くための最低の出力のことです。ペースメーカーを植え込んだ人でも、不整脈の薬を飲んでいる方がいらっしゃいます。ペースメーカーは遅すぎる脈をペーシングして50-60/分以上に保つ機械ですが、早い不整脈や徐脈以外の不整脈には何もしてくれません。早い不整脈で不都合がある時は不整脈の薬が処方されます。不整脈の薬は心筋のペーシング閾値を上げる場合があります。通常、ペーシングの出力は、その人の必要最低限の出力(閾値)の3倍以上に大きく設定してありますので、ちょっとぐらい閾値が上がっても問題は起こりません。しかし、新しい薬に変わったときや新たに不整脈の薬を飲んだとき、閾値が上がりペーシングしなくなって、めまいなどの症状が出る場合があります。ペースメーカーチェックでは毎回この閾値を測っていますので、現在不整脈の薬を飲んでいてペースメーカーチェックをうけている人は心配ありません。またこのような作用は不整脈の薬にのみ見られる作用で、血圧や胃薬など、ほかの薬ではおこりません。

### ④ リードの偏移

ペースメーカーのリードは、植え込み後約1ヶ月で心筋に固定され上腕の回転などの運動でも動かなくなるのが普通です。しかし1ヶ月以内はリードの固定がまだ不完全ですので肩口での固定が緩むとリードが抜けてくる場合があります。リードが抜けてペーシングしなくなってしまうと命にかかわりますから、至急再手術を行います。全手術の0.5%といわれています

### ⑤ メーカーからのリコール

ペースメーカーも自動車と同じで、その機種に不具合が見つかるとメーカーからのリコールがある場合があります。ペースメーカーに日本製のものはなくすべて外国製ですが、植え込み時に個人名や住所を登録することになっておりますので、リコールが発生した場合には、まずチェックをしている医師に連絡が来ます。(急を要するものであれば、本人に連絡が行くようになっています。)そのまま経過を見るか、すぐに再手術をして植え替えをするかを検討して対応します。過去にリードのリコールがあり、当院でも計11人の方のリードを入れ替えしたことがあります。

